

一 卒業生から閉校に寄せることば

学舎焼失の「負の体験」を生きる力に

——十五の春の遠い追憶のなかに——

黒澤 英典

(昭和27年度卒)

今日、私たちを取り巻く社会情勢急激な変化の中で、両神中学校が69年の歴史に終焉をむかえ、小鹿野中学校に統合され閉校となるとの報に接し、ノスタルジアにかられます。

まず、統合に伴う大事業に多忙のなか携わって下さった方々に感謝申し上げます。

両神中学校は63年前の1952(昭和27)年3月29日の昼下がりに焼失しました。決して忘れることのできない悪夢のような思い出です。中学校が焼けていると言うので、夢中で駆けつけてみると校舎はもう既に半分ほど焼けていました。夕方、焼け落ちた校舎の残骸を見たときの悲しみは言葉に言い尽くせませんでした。翌朝、学校に行くときと高根光信、横田一美、原芳雄先生方がおられ、先生方と焼けあとの片付けをしました。その折、新3年のクラス担任の高根先生から、突然、私に校舎が焼けて当分勉強はできないから、転校した方がよいと思うが、明日までに返事をして欲しいと言われました。先生の気持ちはありがたいと思い、一晚考え翌31日の朝早く学校に行き校庭の片隅の柿の木の根元で、生徒会副会長佐々木聡君など数

人の親しい友達に相談したすえ、転校しないことに決めたのでした。確かに、先生の言う通り勉強は出来ないことは分かっていたのですが、私は新学期から、生徒会長になることが、決まっていたのでした。学校が焼けて勉強ができないからと言って、私だけ転校する気にはどうしてもなれなかつたのです。校長先生を始め多くの先生方は両神中学校を去って行きました。新任の近藤善三郎校長先生の下で、焼け跡の片付けの手伝い、学校の裏の坂戸の川原から、背板にミカン箱をつけて川砂利を運び、午後小学生が下校した教室で勉強したのでした。生徒会は校舎建設の募金活動などもしました。12月に待望の新校舎は完成し、木の香の新しい教室で勉強することが出来たことは嬉しいことでした。私たち両神中学校第6回生123名は、学舎焼失の絶望の中から、新しい校舎を造るために先生方と共に協力し合って汗を流した日々を、決して忘れません。学舎焼失の「負の体験」を生きる力としようと思いと堅く誓い合い、1953(昭和28)年3月28日に卒業したのでした。あれから60数年の歳月が過ぎ去りました。あの15の春の体験が、私たち一人ひとりの生き方に強く影響しています。それは、どんな困難に出会っても、決して怯まず、常に勇氣と希望を心に秘めて未来に挑戦しようとする強い意志です。

両神中学校生徒の皆さん、両神中学校はなくなっても、ここで学んだ日々を誇りとして未来に向かって大きく飛翔して下さい。

さよなら！ 我らの両神中学校

～思い出を・そして未来への希望を語る会～

昭和27年度第6回卒業生クラス会

代表幹事 中西 秀夫
同上 山本 定政
同上 黒澤 英典

1、会の趣旨

私たちが両神中学校を卒業して早いもので63年の歳月が流れ去りました。残念なことに両神中学校は3月26日をもって、69年の歴史に幕を閉じました。母校が無くなることは、心の故郷の喪失です。本当に寂しいことです。しかし、振り返って見ると両神中学校で学んだ日々は、私たちの人生で最も多感な時期でした。とりわけ、中学3年生を迎える直前、昭和27年3月29日に校舎が焼失してしまいました。村の人達や先生方と焼けた校舎の後片付けの手伝いやら、ミカン箱を背板につけて登校し、「坂戸（バド）」河原から川砂利を運んだ日々を思い出します。

さて、私たち世代は、1944(昭和19)年4月太平洋戦争の末期に「勝ち抜く僕ら少国民、天皇陛下の恩為に死ねといわれた父母の・・・」歌と共に国民学校に入学し、2年生の真夏の8月15日に「天皇の詔勅」で敗戦を迎え、あの敗戦直後の「悲しみ」と「貧しさ」と「ひもじさ」の時代の激流にさらされるなかを生きてきたのでした。社会人となってからは、高度経済成長を支える人材として、全国各地・各分野で戦後日本社会の発展を支え、今日の豊かな社会の礎を創ってきたのでした。

しかし、いま日本社会は地域格差の拡大によって、農山村では人口の急激な減少に伴う過疎化・少子化が進み、我が両神中学校も生徒数が減少し、廃校を迎えざるを得なくなりました。時代の潮流とはいえ全く寂しいことです。五月晴れのひと時、共に学んだ日々を思い、未来に向かって大いにロマンを語りしたいと思います。

どうぞ皆さん、万慮お繰り合わせのうえご参加下さい。

2、期 日 平成28年5月20日（金）受付：11時30分、開演：12時～3時まで、

3、会 場 国民宿舎 両神荘（TEL 0494-79-1221）

4、参加費 5,000円（受付で集金いたします）

5、参加の有無 同封の「はがき」に《参加の有無》をお書きのうえ
5月6日（金）までに、投函してください。

6、恩師の墓参

吉野あい子、横田一美、高根光信、原 芳雄 先生方の墓参を予定しています。

墓参希望の方は、国民宿舎《両神荘 玄関》に5月20日9時30分までにお出下さい。なお、お墓参希望の方は、同封のハガキにその旨お書き下さい。

《幹事》今井 義雄 岩田 美代子 高橋 弘 今井 きみ子 守屋 賢一 山中 功一

山崎とめ子 今井 助一 池田 サイ 根岸 厚之助 小林 ツネ子 斎藤 義則

《連絡先》黒澤 英典（TEL・FAX：0480-03-5750）

（携帯：090-6921-3075）